

トライアル・コンサートとは？

トライアル・コンサートは、プロジェクトQ・第21章に参加する6組の若いクアルテットがレッスンを重ね勉強してきた楽曲を、本公演と同じ舞台上で、本公演の約1か月前に演奏する「試演会」です。公開マスタークラスでレッスンを重ねてきた成果を、本日お客様の前で全曲を通して披露します。お客様がそれぞれに若いクアルテットの演奏を会場で評価し、演奏をお聴きいただいたご満足度として、お帰りの際に頂戴する入場料に反映させていただきます(100円以上)。また本公演を1か月後に控えた若い奏者たちに、お客様からのご助言、応援エールなどをアンケート用紙にご記入ください。若いクアルテットたちが本公演に向けての参考とさせていただきます。

【マスタークラス(開催実績)】

- ① 9月16日 講師:今井信子(ヴィオラ) & 澤 和樹(ヴァイオリン)
- ② 9月19日 講師:タベア・ツインマーマン(ヴィオラ)
- ③ 9月20日 講師:タベア・ツインマーマン(ヴィオラ)
- ④ 10月23日 講師:ジュリアード弦楽四重奏団
※<https://members.tvuch.com/member/classic/>にて動画配信中！
- ⑤ 10月30日 講師:クアルテット・アルモニコ
- ⑥ 12月3日 講師:原田幸一郎(ヴァイオリン/指揮) & 原田禎夫(チェロ)



アドバイザー:原田幸一郎

プロジェクトQ実行委員会

原田幸一郎(実行委員長) 今井信子 小栗まち絵 川崎雅夫 菅沼準二 原田禎夫

東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 South 棟
テレビマンユニオン音楽事業部内
Tel:03-6418-8617



PROJECT

プロジェクトQ・第21章

若いクアルテット、シューベルトに挑戦する

トライアル・コンサート

〈第1日〉

2024年2月10日(土)15:00開演

会場:TCM ホール(東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス)

主催:プロジェクトQ実行委員会

助成:公益財団法人 青山音楽財団 / 公益財団法人 朝日新聞文化財団 / 公益財団法人 野村財団

協力:学校法人東京音楽大学 / 公益財団法人 日本音楽財団(公益財団法人 日本財団助成事業)

制作:テレビマンユニオン

プロジェクトQ・第21章 ～若いクアルテット、シューベルトに挑戦する トライアル・コンサート〈第1日〉

フランツ・シューベルト(1797-1828)作曲

弦楽四重奏曲 第9番 短調 D.173(1815)

- I. Allegro con brio
- II. Adiantino
- III. Menuet, Allegro vivace
- IV. Allegro

クアルテット・テネラメンテ Quartet Teneramente

米岡結姫／佐久間基就(ヴァイオリン) 島 英恵(ヴィオラ) 金 叙賢(チェロ)
2022年桐朋学園大学にて学ぶ4人によって結成。「テネラメンテ」とはイタリア語の音楽用語で優しく、愛情深きの意。山崎伸子、磯村和英のもとで1年間学ぶ。学内試験において選抜され、室内楽演奏会に出演。ヴィオラスペース 2023 vol. 31にて今井信子のマスタークラスを受講する。

📄 program note

1815年、シューベルトが18歳の時に書かれた作品です。シューベルトはこの同年に交響曲第3番や歌曲「魔王」等数多くの作品を作曲しています。作曲後間もなく非公開で初演され、彼の死後数十年経った1863年のヘルメスベルガー弦楽四重奏団による公演まで表舞台に出ることはありませんでした。早期の作品にもかかわらず、シューベルトの成熟と革新を示す特徴が各所に見られます。古典派音楽家、モーツァルトやハイドンの影響を受けたとされる初期作品の一つです。

この曲に取り組む過程で、我々は古典派の形式の中での自由な表現という課題に直面しました。この曲は、そのシンプルさゆえに、自分たちの色をどう加え、シューベルトらしさを保ちながらも独自の解釈を加えるかが非常に難しい作品です。全てのレッスンを通じて、自由に、そして自分本位ではない「集団」としての調和の中で自由に演奏することの大切さを学びました。この一連の体験は、シンプルな構造の中でどの様に自分たちの声を響かせるか、そして古典的な枠を超えた自由な表現へと導く重要な経験となりました。テネラメンテの名に恥じない、「愛情深い」演奏を心がけたいと思います。

弦楽四重奏曲 第14番 二短調 D.810「死と乙女」(1824)

- I. Allegro
- II. Andante con moto
- III. Scherzo
- IV. Presto-Prestissimo

クアルテット・アンジェリカ Quartet Angelica

遠藤望名／渡邊響子(ヴァイオリン) 細田菜々美(ヴィオラ) 森 朝美(チェロ)
2023年5月 桐朋学園大学、桐朋女子高等学校音楽科に在籍する4人により結成。磯村和英、池田菊衛に師事。「アンジェリカ」は「天使」を意味するラテン語に由来し、天使のような美しい調和を追求したいという想いを込め名付けられる。

📄 program note

弦楽四重奏曲第14番「死と乙女」は1824年3月、前作の弦楽四重奏曲第13番「ロザムンデ」の完成から僅か数週間後にウィーンにて作曲された。この時期、シューベルトは当時不治の病と言われていた梅毒を患っており、作品中にも死期を悟った恐怖や絶望の心境が垣間見える。

第1楽章は激しいユニゾンで始まり、恐怖、苦しみ、諦めの中をひたすら走った後、徐々に息絶えていくような和音で終わる。

第2楽章は彼の代表的なリート曲「死と乙女」のメロディーを主題とした変奏曲となっており、この曲の愛称の由来となっている。

第3楽章のスケルツォには、彼のレントラー集「12のドイツ舞曲」の第6曲を転用。

第4楽章は、毒蜘蛛のタランチュラに噛まれた時にこの踊りを踊ると治るという伝説から名前が生じた舞曲、タランテラになっている。

本作品はシューベルトの生前に公開の場で演奏されることはなく、正式な初演は彼の死から5年経った1833年にベルリンにて行われた。また、楽譜は没後3年の1831年、ウィーンにて出版された。

トライアル・コンサートとは？

トライアル・コンサートは、プロジェクトQ・第21章に参加する6組の若いクアルテットがレッスンを重ね勉強してきた楽曲を、本公演と同じ舞台上で、本公演の約1か月前に演奏する「試演会」です。公開マスタークラスでレッスンを重ねてきた成果を、本日お客様の前で全曲を通して披露します。お客様がそれぞれに若いクアルテットの演奏を会場で評価し、演奏をお聴きいただいたご満足度として、お帰りの際に頂戴する入場料に反映させていただきます(100円以上)。また本公演を1か月後に控えた若い奏者たちに、お客様からのご助言、応援エールなどをアンケート用紙にご記入ください。若いクアルテットたちが本公演に向けての参考とさせていただきます。

【マスタークラス(開催実績)】

- ① 9月16日 講師:今井信子(ヴィオラ)&澤 和樹(ヴァイオリン)
- ② 9月19日 講師:タベア・ツインマーマン(ヴィオラ)
- ③ 9月20日 講師:タベア・ツインマーマン(ヴィオラ)
- ④ 10月23日 講師:ジュリアード弦楽四重奏団
※<https://members.tvuch.com/member/classic/>にて動画配信中！
- ⑤ 10月30日 講師:クアルテット・アルモニコ
- ⑥ 12月3日 講師:原田幸一郎(ヴァイオリン/指揮)&原田禎夫(チェロ)



アドバイザー:原田幸一郎

プロジェクトQ実行委員会

原田幸一郎(実行委員長) 今井信子 小栗まち絵 川崎雅夫 菅沼準二 原田禎夫

東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 South 棟
テレビマンユニオン音楽事業部内
Tel:03-6418-8617



PROJECT

プロジェクトQ・第21章 若いクアルテット、シューベルトに挑戦する

トライアル・コンサート
〈第2日〉

2024年2月11日(日)15:00開演

会場:TCM ホール(東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス)

主催:プロジェクトQ実行委員会

助成:公益財団法人 青山音楽財団 / 公益財団法人 朝日新聞文化財団 / 公益財団法人 野村財団

協力:学校法人東京音楽大学 / 公益財団法人 日本音楽財団(公益財団法人 日本財団助成事業)

制作:テレビマンユニオン

プロジェクトQ・第21章 ～若いクアルテット、シューベルトに挑戦する トライアル・コンサート 〈第2日〉

フランツ・シューベルト(1797-1828)作曲

弦楽四重奏曲 第 11 番 ホ長調 D.353(1816)

- I. Allegro con fuoco
- II. Andante
- III. Menuetto
- IV. Rondo-Allegro vivace

弦楽四重奏曲 第 12 番 ハ短調 D.703「断章」(1820) Allegro assai

クアルテット・ルーチェ Quartet Luce

中嶋美月／竹内鴻史郎(ヴァイオリン) 渡辺紗蘭(ヴィオラ) 原田佳也(チェロ)

2021 年東京音楽大学付属高等学校に在学する 4 人により結成。「ルーチェ」とはイタリア語で「光」。輝かしい音楽を奏でられるようにという意味を込めて名付けた。2022 年プロジェクト Q・第 20 章に参加。2021 年東京音楽大学付属高校チャリティーコンサートに出演。これまでに、原田幸一郎、小栗まち絵に師事。

[📄program note](#)

【第 11 番】1816 年に作曲。それまでの家庭での演奏を前提にしたものでなく、専門の四重奏団に向けて書かれたとされています。古典派音楽を学ぶ中での 1 つの到達点となる曲であり、19 世紀に書かれただけあって古典的な均整が非常にしっかりと取れている作品です。20 分とシューベルトにしては短く、全ての楽章において緩みがありません。個性が強くみられるわけではありませんが、ハイドンやモーツァルトにも匹敵するような古典派弦楽四重奏曲となっています。古典的な完成度が高く、書法は密度が高くなっており、音に自分らしさを確立してきたシューベルトの自信を感じます。

私たちは、クアルテットを組んでから約 2 年が経ちました。昨年までは、主にハイドンの弦楽四重奏曲を取り組んでいましたが、今年度はシューベルトを始め、いろいろな作曲家の曲に取り組みました。第 11 番は演奏される機会が少なく、音楽作りに苦労しましたが、とても明るいシューベルトの世界観を表現できるよう、また「ルーチェ」の名前にふさわしい、輝かしい音楽を奏でられるように、演奏します。【第 12 番】本作品は 1820 年 12 月に着手された弦楽四重奏曲です。第 1 楽章のみが完成し、第 2 楽章の 41 小節がスケッチとして残されたものの作曲は放棄され、後にも加筆されなかったため未完に終わっています。この作品は従来までのシューベルト自身の弦楽四重奏曲とは異なり、曲の構成も古典派スタイルから変わり、シューベルトにとって後期の弦楽四重奏曲への先駆けとなった曲です。ベートーヴェンにもひけを取らないと言ってもいいくらいに、重厚で規模が大きく、力の籠った力作であり、強く訴える力を音楽に与えているのが印象的です。

弦楽四重奏曲 第 13 番 イ短調 D.804「ロザムンデ」(1824)

- I. Allegro ma non troppo
- II. Andante
- III. Menuetto, Allegretto
- IV. Allegro moderato

クアルテット・フェリーチェ Quartet Felice

五月女 恵／清水耀平(ヴァイオリン) 川邊宗一郎(ヴィオラ) 藤野真美(チェロ)

2020 年、桐朋学園大学 1 年在学中の 4 人により結成。「フェリーチェ」とはイタリア語で「幸せ」「喜ばしい」という意。学内オーディションによる第 103、108 回室内楽演奏会に出演。MMCJ2021、霧島国際音楽祭、ル・ポン国際音楽祭 2022 に出演。宗次ホールにてリサイタルを開催。ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール in Tokyo 2022 第 2 位(最高位)。磯村和英、山崎伸子に師事。サントリーホール室内楽アカデミー第 7 期フェロー。

[📄program note](#)

この曲はシューベルトの晩年に作曲された後期三大弦楽四重奏曲の中の 1 曲で、第 14 番「死と乙女」と並んでよく知られたシューベルトの代表作である。題名の「ロザムンデ」は前年に作曲された同名劇音楽の第 3 幕への間奏曲の主題と同じもので、この弦楽四重奏曲の第 2 楽章の主題として使われている。シューベルトの人生に対する悲観的な見方や心境を強く表し、暗い情感や悲壮感に満たされている。曲の構成は古典的だが、モーツァルト、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲とは一味違いロマンティックなムードの漂う作品となっている。特徴として、劇的な音楽が緻密に構成されている事。また、反復される同じ音型に転調、楽器や伴奏音型の変化を加えることで繊細な色合いを織りなす手法は、後期ロマン派を予感させる、時代を先取りしたシューベルトの新境地である。そんな長大な作品を半年間じっくり学ぶことが出来た事に感謝し、緊張感とふとした希望、緩和を表す事が出来るよう演奏したいと思う。

トライアル・コンサートとは？

トライアル・コンサートは、プロジェクトQ・第21章に参加する6組の若いクアルテットがレッスンを重ね勉強してきた楽曲を、本公演と同じ舞台上で、本公演の約1か月前に演奏する「試演会」です。公開マスタークラスでレッスンを重ねてきた成果を、本日お客様の前で全曲を通して披露します。お客様がそれぞれに若いクアルテットの演奏を会場で評価し、演奏をお聴きいただいたご満足度として、お帰りの際に頂戴する入場料に反映させていただきます(100円以上)。また本公演を1か月後に控えた若い奏者たちに、お客様からのご助言、応援エールなどをアンケート用紙にご記入ください。若いクアルテットたちが本公演に向けての参考とさせていただきます。

【マスタークラス(開催実績)】

- ① 9月16日 講師:今井信子(ヴィオラ) & 澤 和樹(ヴァイオリン)
- ② 9月19日 講師:タベア・ツインマーマン(ヴィオラ)
- ③ 9月20日 講師:タベア・ツインマーマン(ヴィオラ)
- ④ 10月23日 講師:ジュリアード弦楽四重奏団
※<https://members.tvuch.com/member/classic/>にて動画配信中！
- ⑤ 10月30日 講師:クアルテット・アルモニコ
- ⑥ 12月3日 講師:原田幸一郎(ヴァイオリン/指揮) & 原田禎夫(チェロ)



プロジェクトQ マスタークラス
第21章 若いクアルテット、シューベルトに挑戦する
講師:ジュリアード弦楽四重奏団...
ProjectQ Masterclass
Juilliard String Quartet

アドバイザー:原田幸一郎

プロジェクトQ実行委員会

原田幸一郎(実行委員長) 今井信子 小栗まち絵 川崎雅夫 菅沼準二 原田禎夫

東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 South 棟
テレビマンユニオン音楽事業部内
Tel:03-6418-8617



PROJECT

プロジェクトQ・第21章 若いクアルテット、シューベルトに挑戦する

トライアル・コンサート 〈第3日〉

2024年2月12日(月)15:00開演
会場:TCM ホール(東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス)

主催:プロジェクトQ実行委員会
助成:公益財団法人 青山音楽財団 / 公益財団法人 朝日新聞文化財団 / 公益財団法人 野村財団
協力:学校法人東京音楽大学 / 公益財団法人 日本音楽財団(公益財団法人 日本財団助成事業)
制作:テレビマンユニオン

プロジェクトQ・第21章 ～若いクアルテット、シューベルトに挑戦する トライアル・コンサート 〈第3日〉

フランツ・シューベルト(1797-1828)作曲

弦楽四重奏曲 第 8 番 変口長調 D.112(1814)

- I. Allegro ma non troppo
- II. Andante sostenuto
- III. Menuetto
- IV. Presto

ルシェリア・クアルテット Le Cherien Quartet

大屋 響／谷本沙綾(ヴァイオリン) 山之内真梨(ヴィオラ) 村上真璃南(チェロ)

2023 年、プロジェクト Q・第 21 章の参加を機に結成する。メンバーは、相愛高等学校ならびに相愛大学大学院在校生、京都市芸術大学卒業生から成る。「ルシェリア」は、フランス語で Le lien「絆、縁」Cheri「大切な人、愛する人」の 2 つが合わさった言葉で、音楽を共に作り上げる仲間との絆、音楽を通して出逢えた人々とのご縁を大切にしたいという想いを込めて名付けた。小栗まち絵、大谷玲子、上森祥平に師事。

📄 program note

第 8 番は 1814 年にわずか 9 日間で完成された。第 1 楽章はすでに書き上げられていた三重奏曲をそのまま弦楽四重奏曲の形に書き直したものであり、「4 時間半で作曲した」とシューベルトの手記に記されている。

前作第 7 番までは家族で楽しむ家庭用音楽であったが、この曲以後の作品は明らかに専門の演奏者を意識して作曲されたと考えられ、音楽的内容もより充実されてくる。ベートーヴェンの構築の中で、ロマン派的な楽想の飛翔というシューベルトならではの個性を示し、傑作の呼び声が高い器楽作品である。

第 1 楽章の冒頭の主題に含まれる半音階的な進行はこの楽章だけでなく、全曲に重要な影響を及ぼすことになる。第 2 楽章では強弱の対比性を効果的に生かし、第 3 楽章は古典的なメヌエットの中で、そして、スケルツォ的な性格を持った最終楽章では華やかに充実感を与えることに成功した。

弦楽四重奏曲 第 15 番 ト長調 D.887(1826)

- I. Allegro molto moderato
- II. Andante un poco moto
- III. Scherzo, Allegro vivace
- IV. Allegro assai

クアルテット・プリマヴェーラ Quartet Primavera

石川未央／岡祐佳里(ヴァイオリン) 多湖桃子(ヴィオラ) 大江 慧(チェロ)

2021 年に桐朋学園大学在学中に結成。「プリマヴェーラ」とはイタリア語の「春」。桐朋学園大学学内の室内楽試験にて優秀な成績を収め、第 108 回室内楽演奏会に出演。MMCJ2022、プロジェクト Q・第 20 章に参加。ヴィオラスペース 2023vol. 31 にて公開マスタークラスを受講。サントリーホール室内楽アカデミー第 7 期フェロー。サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン 2023 フィナーレに出演し好評を博す。磯村和英、山崎伸子に師事。

📄 program note

この作品は、シューベルトが弦楽四重奏曲を作曲した最後の作品であり、亡くなる 2 年前に完成した。シューベルト自身の直筆譜には、1826 年 6 月 20 日から 30 日にかけて 10 日間で書き上げられたとある。直筆のパート譜は 1827 年に作成されている。しかし、そのパート譜は現在紛失しており、それが作曲者によって書かれたものかもわからないままである。

演奏時間は 45 分と協奏曲と変わらないくらいの大曲であり、曲全体がオーケストラのような壮大なスケールで作曲されているように感じる。演奏技術的にも、大変難しく、トレモロや連符、高音でのアルペジオなどが用いられ、華やかな作風となっている。

私たちはシューベルトを取り組んだ曲は 15 番が初めてでしたが、シューベルトの人生や和声進行を 4 人で勉強し、半年間学びました。シューベルトの作品の中でも最も名曲である、「魔王」を感じるメロディーをいくつか発見し、シューベルトがどんな人生を歩んできて、何を伝えたくてこの作品を作曲したかを会場の皆様と 45 分という時間で共有していければと思います。

弦楽四重奏曲 第 14 番 二短調 D.810「死と乙女」(1824)

- I. Allegro
- II. Andante con moto
- III. Scherzo
- IV. Presto-Prestissimo

クアルテット・アンジェリカ Quartet Angelica

遠藤望名／渡邊響子(ヴァイオリン) 細田菜々美(ヴィオラ) 森 朝美(チェロ)

2023 年 5 月 桐朋学園大学、桐朋女子高等学校音楽科に在籍する 4 人により結成。磯村和英、池田菊衛に師事。「アンジェリカ」は「天使」を意味するラテン語に由来し、天使のような美しい調和を追求したいという想いを込め名付けられる。

program note

弦楽四重奏曲第 14 番「死と乙女」は 1824 年 3 月、前作の弦楽四重奏曲第 13 番「ロザムンデ」の完成から僅か数週間後にウィーンにて作曲された。この時期、シューベルトは当時不治の病と言われていた梅毒を患っており、作品中にも死期を悟った恐怖や絶望の心境が垣間見える。

第 1 楽章は激しいユニゾンで始まり、恐怖、苦しみ、諦めの中をひたすら走った後、徐々に息絶えていくような和音で終わる。

第 2 楽章は彼の代表的なリート曲「死と乙女」のメロディーを主題とした変奏曲となっており、この曲の愛称の由来となっている。

第 3 楽章のスケルツォには、彼のレントラー集「12 のドイツ舞曲」の第 6 曲を転用。

第 4 楽章は、毒蜘蛛のタランチュラに噛まれた時にこの踊りを踊ると治るという伝説から名前が生じた舞曲、タランテラになっている。

本作品はシューベルトの生前に公開の場で演奏されることはなく、正式な初演は彼の死から 5 年が経った 1833 年にベルリンにて行われた。また、楽譜は没後 3 年の 1831 年、ウィーンにて出版された。

【公開マスタークラス】

- 2023 年 9 月 16 日 講師: 今井信子(ヴィオラ) & 澤 和樹(ヴァイオリン)
- 2023 年 9 月 19 日、20 日 講師: タベア・ツインマーマン(ヴィオラ)
- 2023 年 10 月 23 日 講師: ジュリアード弦楽四重奏※<https://members.tvuch.com/>にて動画配信中!
- 2023 年 10 月 30 日 講師: クアルテット・アルモニコ
- 2023 年 12 月 3 日 講師: 原田幸一郎(ヴァイオリン/指揮) & 原田禎夫(チェロ)

【トライアル・コンサート】

2024 年 2 月 10 日(土)、11 日(日)、12 日(月・祝) 15:00 開演

アドバイザー: 原田幸一郎

プロジェクトQ実行委員会

原田幸一郎(実行委員長) 今井信子 小栗まち絵 川崎雅夫 菅沼準二 原田禎夫

東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 South 棟
テレビマンユニオン音楽事業部内 Tel:03-6418-8617



PROJECT

プロジェクトQ・第21章

若いクアルテット、シューベルトに挑戦する

シューベルト: 弦楽四重奏曲演奏会①

2024年3月3日(日) 13:00開演

会場: TCM ホール (東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス)

主催: プロジェクトQ実行委員会

助成: 公益財団法人 青山音楽財団 / 公益財団法人 朝日新聞文化財団 / 公益財団法人 野村財団

協力: 学校法人東京音楽大学 / 公益財団法人 日本音楽財団(公益財団法人 日本財団助成事業)

制作: テレビマンユニオン

プロジェクトQ・第21章 ～若いクアルテット、シューベルトに挑戦する シューベルト:弦楽四重奏曲演奏会①

フランツ・シューベルト(1797-1828)作曲

弦楽四重奏曲 第 8 番 変口長調 D.112(1814)

- I. Allegro ma non troppo
- II. Andante sostenuto
- III. Menuetto
- IV. Presto

ルシェリア・クアルテット Le Cherien Quartet

大屋 響／谷本沙綾(ヴァイオリン) 山之内真梨(ヴィオラ) 村上真璃南(チェロ)
2023 年、プロジェクト Q・第 21 章の参加を機に結成する。メンバーは、相愛高等学校ならびに相愛大学大学院在校生、京都市芸術大学卒業生から成る。「ルシェリア」は、フランス語で Le lien「絆、縁」Cheri「大切な人、愛する人」の 2 つが合わさった言葉で、音楽を共に作り上げる仲間との絆、音楽を通して出逢えた人々とのご縁を大切にしたいという想いを込めて名付けた。小栗まち絵、大谷玲子、上森祥平に師事。

 program note

第 8 番は 1814 年にわずか 9 日間で完成された。第 1 楽章はすでに書き上げられていた三重奏曲をそのまま弦楽四重奏曲の形に書き直したものであり、「4 時間半で作曲した」とシューベルトの手記に記されている。

前作第 7 番までは家族で楽しむ家庭用音楽であったが、この曲以後の作品は明らかに専門の演奏者を意識して作曲されたと考えられ、音楽的内容もより充実されてくる。ベートーヴェンの構築の中で、ロマン派的な楽想の飛翔というシューベルトならではの個性を示し、傑作の呼び声が高い器楽作品である。

第 1 楽章の冒頭の主題に含まれる半音階的な進行はこの楽章だけでなく、全曲に重要な影響を及ぼすことになる。第 2 楽章では強弱の対比性を効果的に生かし、第 3 楽章は古典的なメヌエットの中で、そして、スケルツォ的な性格を持った最終楽章では華やかに充実感を与えることに成功した。

弦楽四重奏曲 第 11 番 木長調 D.353(1816)

- I. Allegro con fuoco
- II. Andante
- III. Menuetto
- IV. Rondo-Allegro vivace

弦楽四重奏曲 第 12 番 ハ短調 D.703「断章」(1820)

Allegro assai

クアルテット・ルーチェ Quartet Luce

中嶋美月／竹内鴻史郎(ヴァイオリン) 渡辺紗蘭(ヴィオラ) 原田佳也(チェロ)

2021 年東京音楽大学付属高等学校に在学する 4 人により結成。「ルーチェ」とはイタリア語で「光」。輝かしい音楽を奏でられるようにという意味を込めて名付けた。2022 年プロジェクト Q・第 20 章に参加。2021 年東京音楽大学付属高校チャリティーコンサートに出演。これまでに、原田幸一郎、小栗まち絵に師事。

 program note

【第 11 番】1816 年に作曲。それまでの家庭での演奏を前提にしたものでなく、専門の四重奏団に向けて書かれたとされています。古典派音楽を学ぶ中での 1 つの到達点となる曲であり、19 世紀に書かれただけあって古典的な均整が非常にしっかりと取れている作品です。20 分とシューベルトにしては短く、全ての楽章において緩みがありません。個性が強くみられるわけではありませんが、ハイドンやモーツァルトにも匹敵するような古典派弦楽四重奏曲となっています。古典的な完成度が高く、書法は密度が高くなっており、音に自分らしさを確立してきたシューベルトの自信を感じます。

私たちは、クアルテットを組んでから約 2 年が経ちました。昨年までは、主にハイドンの弦楽四重奏曲を取り組んでいましたが、今年度はシューベルトを始め、いろいろな作曲家の曲に取り組みました。第 11 番は演奏される機会が少なく、音楽作りに苦労しましたが、とても明るいシューベルトの世界観を表現できるよう、また「ルーチェ」の名前にふさわしい、輝かしい音楽を奏でられるように、演奏します。

【第 12 番】本作品は 1820 年 12 月に着手された弦楽四重奏曲です。第 1 楽章のみが完成し、第 2 楽章の 41 小節がスケッチとして残されたものの作曲は放棄され、後にも加筆されなかったため未完に終わっています。この作品は従来までのシューベルト自身の弦楽四重奏曲とは異なり、曲の構成も古典派スタイルから変わり、シューベルトにとって後期の弦楽四重奏曲への先駆けとなった曲です。ベートーヴェンにもひけを取らないと言ってもいいくらいに、重厚で規模が大きく、力の籠った力作であり、強く訴える力を音楽に与えているのが印象的です。

…… 休憩 ……

弦楽四重奏曲 第15番ト長調 D.887(1826)

- I. Allegro molto moderato
- II. Andante un poco moto
- III. Scherzo, Allegro vivace
- IV. Allegro assai

クアルテット・プリマヴェーラ Quartet Primavera

石川未央／岡祐佳里(ヴァイオリン) 多湖桃子(ヴィオラ) 大江 慧(チェロ)

2021年に桐朋学園大学在学中に結成。「プリマヴェーラ」とはイタリア語の「春」。桐朋学園大学学内の室内楽試験にて優秀な成績を収め、第108回室内楽演奏会に出演。MMCJ2022、プロジェクトQ・第20章に参加。ヴィオラスペース2023vol.31にて公開マスタークラスを受講。サントリーホール室内楽アカデミー第7期フェロー。サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン2023フィナーレに出演し好評を博す。磯村和英、山崎伸子に師事。

📄 program note

この作品は、シューベルトが弦楽四重奏曲を作曲した最後の作品であり、亡くなる2年前に完成した。シューベルト自身の直筆譜には、1826年6月20日から30日にかけて10日間で書き上げられたとある。直筆のパート譜は1827年に作成されている。しかし、そのパート譜は現在紛失しており、それが作曲者によって書かれたものかもわからないままである。演奏時間は45分と協奏曲と変わらないくらいの大曲であり、曲全体がオーケストラのような壮大なスケールで作曲されているように感じる。演奏技術的にも、大変難しく、トレモロや連符、高音でのアルペジオなどが用いられ、華やかな作風となっている。

私たちはシューベルトを取り組んだ曲は15番が初めてでしたが、シューベルトの人生や和声進行を4人で勉強し、半年間学びました。シューベルトの作品の中でも最も名曲である、「魔王」を感じるメロディーをいくつか発見し、シューベルトがどんな人生を歩んできて、何を伝えたくてこの作品を作曲したかを会場の皆様と45分という時間で共有していければと思います。

【公開マスタークラス】

- 2023年9月16日 講師: 今井信子(ヴィオラ) & 澤 和樹(ヴァイオリン)
2023年9月19日、20日 講師: タベア・ツィンマーマン(ヴィオラ)
2023年10月23日 講師: ジュリアード弦楽四重奏※<https://members.tvuch.com/>にて動画配信!
2023年10月30日 講師: クアルテット・アルモニコ
2023年12月3日 講師: 原田幸一郎(ヴァイオリン/指揮) & 原田禎夫(チェロ)

【トライアル・コンサート】

2024年2月10日(土)、11日(日)、12日(月・祝) 15:00 開演

アドヴァイザー: 原田幸一郎

プロジェクトQ実行委員会

原田幸一郎(実行委員長) 今井信子 小栗まち絵 川崎雅夫 菅沼準二 原田禎夫

東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 South 棟
テレビマンユニオン音楽事業部内 Tel: 03-6418-8617



PROJECT

プロジェクトQ・第21章

若いクアルテット、シューベルトに挑戦する

シューベルト: 弦楽四重奏曲演奏会②

2024年3月3日(日) 18:00 開演

会場: TCM ホール (東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス)

主催: プロジェクトQ実行委員会

助成: 公益財団法人 青山音楽財団 / 公益財団法人 朝日新聞文化財団 / 公益財団法人 野村財団

協力: 学校法人東京音楽大学 / 公益財団法人 日本音楽財団(公益財団法人 日本財団助成事業)

制作: テレビマンユニオン

プロジェクトQ・第21章

～若いクアルテット、シューベルトに挑戦する

シューベルト：弦楽四重奏曲演奏会②

フランツ・シューベルト(1797-1828)作曲

弦楽四重奏曲 第9番 ト短調 D.173(1815)

- I. Allegro con brio
- II. Adiantino
- III. Menuet, Allegro vivace
- IV. Allegro

クアルテット・テネラメンテ Quartet Teneramente

米岡結姫／佐久間基就(ヴァイオリン) 島 英恵(ヴィオラ) 金 叙賢(チェロ)
2022年桐朋学園大学にて学ぶ4人によって結成。「テネラメンテ」とはイタリア語の音楽用語で優しく、愛情深きの意。山崎伸子、磯村和英のもとで1年間学ぶ。学内試験において選抜され、室内楽演奏会に出演。ヴィオラスペース 2023 vol. 31にて今井信子のマスタークラスを受講する。

📄 program note

1815年、シューベルトが18歳の時に書かれた作品です。シューベルトはこの同年に交響曲第3番や歌曲「魔王」等数多くの作品を作曲しています。作曲後間もなく非公開で初演され、彼の死後数十年経った1863年のヘルメスベルガー弦楽四重奏団による公演まで表舞台に出ることはありませんでした。早期の作品にもかかわらず、シューベルトの成熟と革新を示す特徴が各所に見られます。古典派音楽家、モーツァルトやハイドンの影響を受けたとされる初期作品の一つです。

この曲に取り組む過程で、我々は古典派の形式の中での自由な表現という課題に直面しました。この曲は、そのシンプルさゆえに、自分たちの色をどう加え、シューベルトらしさを保ちながらも独自の解釈を加えるかが非常に難しい作品です。全てのレッスンを通じて、自由に、そして自分本位ではない「集団」としての調和の中で自由に演奏することの大切さを学びました。この一連の体験は、シンプルな構造の中でどの様に自分たちの声を響かせるか、そして古典的な枠を超えた自由な表現へと導く重要な経験となりました。テネラメンテの名に恥じない、「愛情深い」演奏を心がけたいと思います。

弦楽四重奏曲 第13番 イ短調 D.804「ロザムンデ」(1824)

- I. Allegro ma non troppo
- II. Andante
- III. Menuetto, Allegretto
- IV. Allegro moderato

クアルテット・フェリーチェ Quartet Felice

五月女 恵／清水耀平(ヴァイオリン) 川邊宗一郎(ヴィオラ) 藤野真美(チェロ)
2020年、桐朋学園大学1年在学中の4人により結成。「フェリーチェ」とはイタリア語で「幸せ」「喜ばしい」という意。学内オーディションによる第103、108回室内楽演奏会に出演。MMCJ2021、霧島国際音楽祭、ル・ポン国際音楽祭2022に出演。宗次ホールにてリサイタルを開催。ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール in Tokyo 2022 第2位(最高位)。磯村和英、山崎伸子に師事。サントリーホール室内楽アカデミー第7期フェロー。

📄 program note

この曲はシューベルトの晩年に作曲された後期三大弦楽四重奏曲の中の1曲で、第14番「死と乙女」と並んでよく知られたシューベルトの代表作である。題名の「ロザムンデ」は前年に作曲された同名劇音楽の第3幕への間奏曲の主題と同じもので、この弦楽四重奏曲の第2楽章の主題として使われている。シューベルトの人生に対する悲観的な見方や心境を強く表し、暗い情感や悲壮感に満たされている。曲の構成は古典的だが、モーツァルト、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲とは一味違いロマンティックなムードの漂う作品となっている。特徴として、劇的な音楽が緻密に構成されている事。また、反復される同じ音型に転調、楽器や伴奏音型の変化を加えることで繊細な色合いを織りなす手法は、後期ロマン派を予感させる、時代を先取りしたシューベルトの新境地である。そんな長大な作品を半年間じっくり学ぶことが出来た事に感謝し、緊張感とふとした希望、緩和を表す事が出来るよう演奏したいと思う。

…… 休憩 ……